

## <閉校式 校長挨拶 R5.3.24>

本日は、八百津町長・金子政則（かねこ まさのり）様をはじめ、日頃より本校教育をお支えいただいている皆様にお越しいただき、閉校式を挙げていただいたことに感謝しております。

高いところからではございますが、あらためて、皆様に厚くお礼申し上げます。

本校校長として、ご挨拶させていただく機会を設けていただきましたので、この場を借りて大きく二つのことについてお話させていただきます。

一つ目は八百津小との統合に向けての取り組みについてです。

昨年9月に、半年後に閉校、八百津小との統合が正式に決まりました。それ以来、潮見小・八百津小 双方の子どもたちが安心して四月を迎えられるよう、私たち潮見小職員は八百津小職員とともに準備を進めてきました。

まず、児童同士の交流ですが、交流会はWebでの交流を含めると7回実施しました。潮見小の自慢の一輪車を披露したり、一緒に授業を受けたりしました。4年生と5年生は、来年度の委員会や運動会の応援団なども一緒に決めました。3月10日には潮見小の児童はスクールバスでの登下校も含めて1日八百津小で過ごしました。本校の児童は八百津保育園を卒園した児童が多いこともあり、同じ学年の子どもたちはもうすっかり打ち解けています

次に、潮見小の特色ある教育活動の八百津小への引継ぎについてです。

潮見小の特色ある教育活動といえば「一輪車」と花壇づくり・・・校内ではFBC活動とよんでいます。それらを何らかの形で、また、総合的な学習の時間で学習してきた潮南について学ぶことの継続を八百津小にお願いしました。八百津小でもたいへん前向きに検討していただき、一輪車については来年度から、学校のクラブ活動の中に「一輪車クラブ」を立ち上げていただくことになりました。FBC活動については、新たにFBC用の花壇を整備し、4年生が中心になって花壇づくりに取り組みます。また、本校のFBC活動を長く支えてくださった校務員の さんも引き続き八百津小の花壇づくりにボランティアとして協力していただきます。

潮南についての学習ですが、八百津小の生活科や総合的な学習の時間に「潮南学」を位置付け、どの学年も1年に1回は潮南に来て学習をする計画を立案していただきました。講師として今年度、本校の学校運営協議会委員で、これまでの本校の学習を支えてくださった さんや さんには既に依頼済みです。今後、八百津小から、潮南地区の方に協力の依頼がありました

ら、ぜひお力添えください。また、潮見っ子に愛されている、潮見小のキャラクターの「シオミン」も、4月からは八百津小の「潮南学」のシンボルになることも決まっています。なお、「シオミン」については、潮南郵便局で活用したい。潮南地区のキャラクターにしたい等の本当にうれしい声が届いています。営利目的等でなければ、潮見小の思い出とともに引き続き活用していただけたらと思います。

他にも潮南の声を八百津小に届ける組織作りも進めました。潮南の保護者や地域の声が八百津小に届くように、八百津小と検討して、八百津小のPTA本部役員会・学校運営協議会・地域安全ボランティアの会に「潮南枠」を設けていただきました。PTA本部役員会については八百津小のPTA規約を改正して、PTA副会長1名を潮南地区から選出していただけるようにしました。また、PTA活動に資源回収がありますが、潮南地区ではこれまでと同様の方法で資源回収が継続できるように今調整を進めています。学校運営協議会については潮南地区から2名の委員を選出することとしました。また、地域安全ボランティアの会についてですが、潮見小は閉校しますが、潮南に児童がいることは変わりないです。引き続き、会員の方には八百津小潮南地区の地域安全ボランティアとして、潮見っ子の見守りをお願いしました。

統合に向けて、児童同士の交流・潮見小の特色ある教育活動の引き継ぎ・潮南の声を届ける組織づくりを八百津小と協力しながら進めました。何分、時間のない中で、本当にこれでよいのかと思いながらの進めてきたことなので、保護者の皆様、地域の皆様どうぞご安心してくださいとは胸を張って言えませんが、やれることを精一杯取り組んでできました。どうぞご理解のほどをよろしくお願いします。

大きく2点目に潮見小の教育・・・特に近年の教育について振り返ってみます。

私は2年間潮見小の校長を務めさせていただきました。潮見っ子の様子を見ていて、いつも感心することがあります。それは、潮見小の子どもたちは授業や集会等で、実によく話す・・・自分の考えをととても詳しく話すことができるということです。全校児童10名程度の潮見小では、複式の各学級はさらに少なくなります。そのため、一人一人が主体的に学びに向かい、発言しなければ授業は成り立ちません。どの授業においても自ずと発言する機会が多くなります。そのことが「実によく話す」につながっているのだと思いますが、これは現在の教育に求められている「コミュニケーション能力の育成」に通じるものがあります。

また、複式学級だった本校では、算数の授業では、いわゆる「わたり」の授

業が行われてきました。「わたり」というのは、一つの学級で二つの学年の授業を展開する活動です。先生が一つの学年を教えている間に、もう一つの学年は子どもたちだけで課題に向き合い、考えを交流しながら解決することになります。本校ではこれを「自学」と呼んでいます。少し専門的になってしまいますが、学習過程の中で児童同士の対話的な学びが必然的に行われているのです。この姿は、現在の教育が目指す「主体的・対話的な深い学び」の姿だと言えます。

他にも感心することがあります。2年前に国のGIGAスクール構想の前倒しにより、全国の小中学生全員にICT端末・・・いわゆるタブレットが支給されました。このタブレットを有効活用することが、現在の日本の教育の喫緊の課題になっていますが、少人数の潮見小ではじっくり指導できる、そして活用する機会が多いので、潮見っ子は確実にタブレットを使いこなしています。また、少人数で交流する機会の限られた潮見小ではWebを活用して積極的に他校と交流をしてきました。Web交流でもタブレットは欠かせません。潮見っ子にとってICT端末はマストアイテムになっています。

「コミュニケーション能力の育成」「主体的・対話的な深い学び」「ICT端末の有効活用」は現在の日本の教育が目指す姿や課題ですが、潮見小では少人数というメリットを生かして、他に先んじて成果を出しているように思います。

これまでも、私は学校だより等でもよく「潮見小は日本の教育の最先端を担っている」と記したきましたが、決して過言だとは思っていません。

思えば、潮見小の歴代の先生方は、へき地・複式・小規模校の特性を活かすことに徹して、個に応じた指導を大切にして表現力を鍛え、仲間と共に粘り強くやり抜き、生きる力を育んできました。

潮見小歴代の先生方が心血を注いで築きあげた教育を私たちは全力で引継ぎ潮見っ子を育ててきました。

潮見小は閉校を迎え、潮南の子どもたちを育むという役目を終えます。私は半年前に閉校が決まったことを潮見っ子に伝えるときに、「潮見小は楽しいな、潮見小で自分はこんなに成長したと思うことができ、キラリと輝く笑顔をいっぱい創れば、きっと周りの人も潮見小はとってもいい学校だったと思ってもらえます・・・たくさんの人にそう思われて、潮見小学校を閉じたいですね」と話しました。

それから運動会・見行山登山・ふれあい発表会・・・保護者や地域の皆様に潮見っ子の姿をみていただく機会は限られていますが、どうでしょうか潮見っ子の笑顔はキラリと輝いていたでしょうか・・・潮見っ子の笑顔を見ていた

だき、少しでも多くの方に潮見小はいい学校だと思っただけだとしたら幸いです。

潮見っ子にも一言伝えさせてください。

校長先生はみんなのキラリと輝く笑顔が大好きでした。

校長先生はこの一年、みんなにはいいところがあるって言い続けてきたね。みんなには一人一人間違いなくキラリと輝く素敵なところがあります。それが何かも分かっているね

潮見小でしっかり学んだみんななら東部中へ行っても、八百津小へ行っても大丈夫です。自信をもって新しい世界でも、キラリと輝く笑顔を弾かせてください。

校歌の4番にあるように「大きい夢を伸ばそう伸びよう」ですよ  
羽ばたけ 潮見っ子！！

結びに、149年間の長きにわたり本校を支え潮見っ子を慈しみ育てていただきました地域の皆様、御指導をいただきました八百津町及び八百津町教育委員会の皆様、御理解と御協力をいただきました保護者の皆様、教育的愛情をもち教育活動に取り組まれた歴代校長先生をはじめ旧教職員の皆様に、心からの敬意と感謝の意を表しますとともに、本校に関係した全ての皆様方の御多幸をお祈りいたしまして、潮見小学校閉校式の挨拶とさせていただきます。

令和5年3月24日 潮見小学校 校長 上田 浩之